

# 「図工の種集め」 実践の手引き

---



# 自分らしい表現を追求できるようにするために「図工の種集め」を設定しましょう

いいこと考えた！

こんなこともできそう！

自ら形や色、表現方法などを考え、自分らしい表現を追求する楽しさを感じてほしいと思いませんか？自己決定を促す手立て「図工の種集め」を使ってみませんか？

## 自分らしい表現を追求する児童

自己決定 を繰り返しながら表現していく

### 図工の種集め

### 表現の手掛かりをつかむ

多様な表現方法に気付く

効果的な表し方を実感する

広げる

深める

共有した  
ことを基に  
試す

見付けたことを  
共有する  
(教師の意図的な指名や紹介)

思いのままに  
試す

## 二つの組立

できそうなことを思い付く場面

表現方法を選んで表す場面

## 三つの組立

構想する（下絵に表す）場面

教師の願い

自己決定を積み重ね、自分らしい表現を追求する楽しさを味わわせたい。



児童の実態

表し方を考えたり工夫して表したりするのは苦手だな。



### 「図工の種集め」とは？

自己決定したくても手掛かりが何もないところで行うということは難しいものです。「図工の種集め」は、自己決定していくための手掛かりをつかむ学習活動です。

### 共有の目的

「図工の種集め」は共有の仕方がポイントです。多様な表現方法に気付かせる(広げる)共有か、効果的な表し方を実感させる(深める)共有かを、意識して行うことが大切です。

### 「図工の種集め」どのようにするの？

「図工の種集め」は試す活動と共有する活動、二つの活動で組み立てられた一単位時間の学習活動です。「広げる」「深める」という目的に応じて二つの組立と三つの組立を使い分けします。

### 「図工の種集め」いつ設定する？

児童が一生懸命考えたり悩んだりする場面で手掛かりがあると良いですね。そのような場面には左のように「できそうなことを思い付く場面」「構想する場面」「表現方法を選んで表す場面」の三つがあります。この三つの場面の手前で「図工の種集め」を設定し手掛かりをつかませてあげましょう。

# 「図工の種集め」は、いつ行うの？

児童が一生懸命悩んだり考えたりする場面

## 絵の完成

### 表現方法を選んで表す場面

何色で塗ろうかな・・・ どうやって塗ろうかな・・・

場面の手前

### 構想する（下絵に表す）場面

どうやって描こうかな・・・ どのくらいの大きさにしようかな・・・

場面の手前

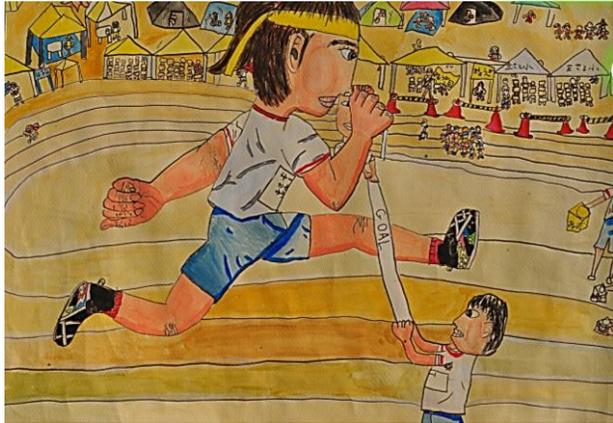
### できそうなことを思い付く場面

何を描こうかな・・・

場面の手前

子どもたちが一生懸命悩んだり考えたりする場面には手掛かりをつかんだ上で取り組ませてあげましょう。そこで、「図工の種集め」は、子どもたちが一生懸命悩んだり考えたりする三つの場面の手前で設定しましょう。

すると・・・



走っている感じを出したいから自分をもっと上に描こう。



形を切り抜いた抜き型も使ってみたよ。

色を変えてたくさん並べたら、楽しい海の中に見えてきたよ。そうだ、魚の形もつくろう。

はっぴがフワッとなった感じを出したいな。試したあの塗り方を使ってみるとよさそうだよ。

# 図工の種集め 二つの組立

# できそうなことを思い付く場面 「広げる」ことを目的とした「図工の種集め」

- 表現方法や材料を生かしてできそうなことを思い付く場面の前に設定します。
- 多様な表現方法を知る（広げる）ことを目的とします。
- 広げることを目的とした「図工の種集め」は二つの組立にします。

具体例  
対象 小学校2年生  
題材 「たのしく うつして」  
(型紙版画)

つかむ

- 課題の提案
- 活動への動機付け

- 型紙版画の紹介をします。
- 教師がステンシル版画を実演します。

・掲示物を使い、道具や手順について確認しましょう。

## 「図工の種集め」スタート

○表現方法や思い付いたことを自分の感覚で直接味わいながら思いのままに試す。

A児 表現方法ア 〃 イ 〃 ウ の獲得	B児 表現方法イ 〃 エ 〃 オ の獲得	C児 表現方法ウ 〃 オ 〃 カ の獲得
----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------

自分なりの表現方法を次々と発見していきます。



ローラーを  
ポンポン  
たたいて使う



型紙を使う



抜き型を使う

・試す時間を十分に確保しましょう。  
・児童がスムーズに動けるように考えて場を設定しましょう。



- ◇道具は4人で一セット。自然と友達の試しに注目します。
- ◇ローラーは色分けした入れ物に戻すとずっときれい。
- ◇試した作品は吊して干します。干している間に友達の作品を見て、次の表現方法のヒントを見付けていきます。



思いのままに試す活動

○試した中で見付けた形や色、表現方法などを共有する。

広げる



- ・経験で得たものが整理され、多様な表現方法に気付き知的好奇心を高める。
- ・次の活動で活用できることを知る。

児童が試す活動で表したものを示しながら黒板に整理していきます。  
○多様な表現方法に気付いていきます。  
○体験で得たことが整理されます。

型紙

型紙  
抜き型

置き方

型を裏返し  
繰り返し  
並べる

ローラー

転がす  
ポンポンたたく

色

変える  
重ねる

・意図的指名により、児童の表現を取り上げましょう。  
・表現方法を広げることが目的です。ここでは、多様な表現方法を提示しましょう。

## その結果

「図工の種集め」後の表現に見られる児童の姿

- 多様な表現方法に触れ、新たな表現方法に挑戦したり自分では気付かなかった工夫を取り入れたりして主体的に活動します。
- 体験を基に膨らませたイメージから、表したいものを見付けていきます。

自己決定

共有したことから表現方法を選んだり組み合わせたりして自己決定していきます。



・共有した表現方法を掲示し、表現しながら振り返ることができるようにしましょう。

「図工の種集め」を基に表す

# 図工の種集め 三つの組立

## 構想する（下絵に表す）場面 「深める」ことを目的とした「図工の種集め」

- イメージを具体化して構想を練る場面の前に設定します。
- 効果的な表し方を実感する（深める）ことを目的とします。
- 深めることを目的とした「図工の種集め」は三つの組立にします。

具体例  
対象 小学校4年生  
題材 「わすれられない あの時」  
—運動会 あのしゅん間—

つかむ

- 課題の提案
- 活動への動機付け

- 紙人形と短冊を使って、ポーズ、大きさ、位置を考えようと提案します。

### 「図工の種集め」スタート

- 表し方を工夫する際の視点に沿って試す。

A児  
の工夫  
を取り  
入れた  
表現



B児  
の工夫  
を取り  
入れた  
表現



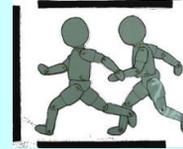
C児  
の工夫  
を取り  
入れた  
表現



自分なりの表し方を見付けていきます。



①紙人形を使いポーズを考える。



②短冊で囲い大きさと位置を考える。

- ・何を試すのか、視点を確認にしましょう。
- ・手順を示しましょう。
- ①ポーズを試す。
- ②大きさ、位置を試す。

思いのままに  
試す活動

- ・試す時間を十分に確保しましょう。
- ・ポーズを取る児童、紙人形を操作する児童と役割を決めます。時間を決めて役割を交代します。
- ・黒い画用紙で短冊を作り、一人に4本用意します。

見つけたことを  
共有する活動

- 試した中で見つけた表し方を共有する。

A児の工夫 B児の工夫 C児の工夫



深める

- ・体験したことが整理され、自分の表現に取り入れると効果的だと感じる表し方に気付く。
- ・気付かなかった工夫を知り、表し方の認識が深まる。

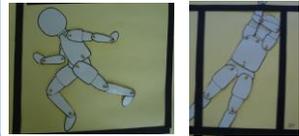
児童が試す活動で表したものを示しながら黒板に整理していきます。  
○効果的な表し方に気付いていきます。  
○体験で得たことが整理されます。



一部をはみ出させるのいいな

斜めに置く方法もあったか

- ・構想を深めることが目的です。ここでは、効果的な表し方をしている児童の表現を提示しましょう。



空間を作っている 斜めに配置

共有したことを  
試す活動

- 共有したことを基に目的を持って試す。

- ・自分では気付かなかった工夫を取り入れ効果を実感する。

A児  
自分では  
気付か  
なかつ  
た工夫  
を取り  
入れよ  
り良く  
する。



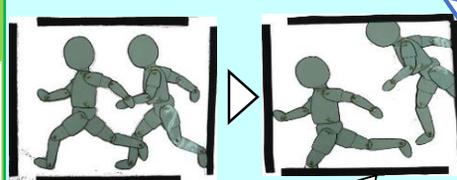
B児  
気付か  
なかつ  
た工夫  
を取り  
入れ、  
上手く  
いかな  
かつた  
方法に  
再度挑  
戦する。



C児  
自分の  
表現方  
法をよ  
り良く  
する工  
夫はあ  
るか見  
直す。



効果的な表し方を取り入れて、もう一度試し、効果を実感します。



斜めに置こう  
友達にはみ出させよう

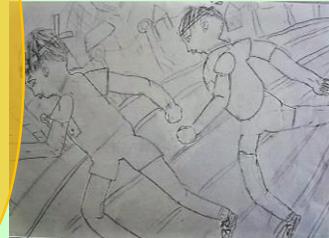
- ・「競い合っている感じを出したくて斜めに置いたんだね」など、表したいことと、表し方のつながりを視点に、個別に声掛けをしましょう。

### その結果

「図工の種集め」後の表現に見られる児童の姿

- 形や色、表現方法などの特徴を捉え、主体的に活用する。
- イメージを具体化する効果的な方法を基に、表し方を見付けていく。

自己決定



下書きに入っても戸惑わず、試したポーズ、大きさ、位置を基にしながら描き始めます。

- ・「図工の種集め」で決めた構図を大まかに描き込んでから、改めて友達のポーズを見て描くことを提案しましょう。
- ・人物を描き終えたら周りに何を描き込むと良いかを考え、描き足していくよう提案しましょう。

「図工の種集め」を基に表す

# 「図工の種集め」のポイント

## 「広げる」ことを目的とした時は三つの組立ではダメ？

多様な表現方法に気付かせる（広げる）「図工の種集め」は、「思いのままに試す」と「見付けたことを共有する」の二つの組立です。では、三つの組立にするとどうでしょうか。共有した後の児童は、多様な表現方法に気づき「あんなこともできそうだ」「いいこと考えた」と知的な好奇心が高まっている状態です。ここでもう一度試しを行ってしまうと児童の知的な好奇心は試しで満たされ、より良い表現に向けて絞り込む思考にシフトしてしまいます。これでは行き過ぎです。「あんなことができそうだ」「これをやってみたい」と、表現の手掛かりを持ち知的な好奇心が高まった状態で作品づくりに向かわせることが、自己決定を繰り返しながら表現する姿につながるのです。

一方、深めることを目的とした場合は、既に思いや願いをある程度持った状態ですから、思いや願いに照らして構想を吟味することが大切になります。ですから、三つの組立にしてもう一度試しを行うことで構想が深まるのです。

## 紹介する表現はどうやって決めるの？

共有で「広げる」ためには多様な表現方法を提示し、「深める」ためには効果的な表し方を提示します。

そのためには、「思いのままに試す活動」の中で、提示する表現方法を見取っておく必要があります。試している時に児童に問い掛けて活動を意識させたり、後で提示できるようにデジタルカメラで撮影したりしておくといいでしょう。



## 準備が大変。でもね、準備が8割です。

材料・道具の準備や場の設定は大変なことです。図画工作の授業は準備が8割です。児童に手掛かりをつかませるためにどのような試しが必要？材料や用具が幾つあると児童の活動が保たれ、友達の表現に気付ける？どこに何を置いたら児童がスムーズに動いて友達の表現にも目がいく？このようなことを考えて準備をしていくことで「先生教えて」から「先生見付けたよ！」に変わっていくのです。題材に入る前に豊かに活動する児童の姿を具体的にイメージして楽しみながら準備を進めましょう。

## 児童が自己決定を繰り返し 自分らしい表現を追求していくために



「先生これでいいですか」「先生、次はどうしたらいいですか」そんな言葉が聞こえてくる時、子どもたちは表現する喜びを味わっているのだろうか・・・と疑問に思ってしまう。

教師は児童に表現を強いるのではなく、手掛かりをつかませてあげる存在であるべきだと思います。児童から「いいこと考えた」「あんなこともできそうだ」、そんな言葉があふれる図画工作の授業にしていくために、ぜひ、「図工の種集め」を取り入れてみましょう。

【付録】 題材「わすれられない あの時～運動会 あのしゅん間～」で使した紙人形型  
 A 3 判に拡大して使してください。

